

「わが校の英語教育」

今年3月に行われた平成17年度英検成績優秀者・優秀団体表彰式において「文部科学大臣奨励賞(団体部門)」を受賞した広島大学附属福山中・高等学校と青森県立五所川原高等学校の両校に「わが校の英語教育」についてレポートしてもらいました。栄えある賞を受賞した両校の取組にご注目!



広島大学附属福山中・高等学校

英語科主任

池岡 慎



広島大学附属福山中学校における英語教育について

文部科学大臣奨励賞受賞の知らせを受けたときには、あまり実感が湧きませんでした。しかし、日が経つにつれ、当校における日々の英語教育の取組がこのような栄誉ある形で評価されたことに、英語科教員だけでなく、生徒も一層の自信と誇りをもったようです。さて、当校は、中高一貫校ではありますが、今回、中学校が受賞したということで、以下、中学校での英語教育の取組を紹介させていただきます。

はじめに

当校は、瀬戸内海の気候が地中海と対応していることもあり、古代ギリシャのデモクラシーを象徴しているオリーブを学校のシンボルとしています。また、校内には、福山市のシンボルであるバラが数多く育てられ、毎年見事な花を咲かせます。そして、コンテストにおいて、毎年高い評価を受けていることで有名です。また、当校は、授業のチャイムが鳴らないことでも有名です。つまり、一人ひとりが自主自立の精神をもって、授業はもちろんのこと、あらゆる活動に積極的に参加することが期待されている学校です。

英語科教員について

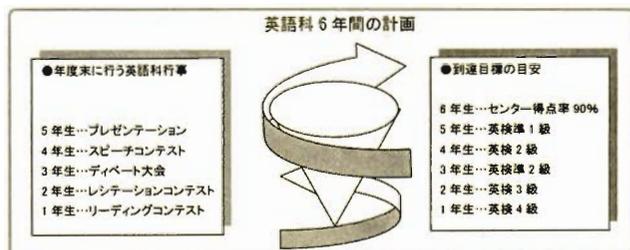
英語科は、9名(うち1名は講師)の教員とALTとで構成されており、それぞれが中学、高校の区別なく授業を担当しています。そのおかげで、中学1年生から高校3年生までの生徒一人ひとりを把握することができ、全員で生徒を支えるといった雰囲気のもと、きめ細やかな指導が可能となっています。



英語科教員(生徒作品)

シラバスについて

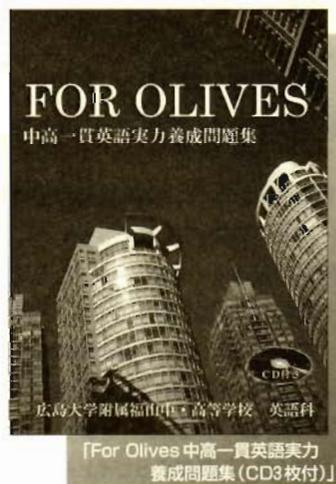
毎年3月の終わりには、前年度の実績をもとに、それぞれの学年の担当者(各学年の担任)が次年度のシラバスを作成し、1日をかけて全員で検討することとしています。当校の英語教育の特徴としては、1年間のまとめとして、各学年主催による行事があること、達成目標として、社会的に評価の高い英検の級を提示しているところです。もう1つ非常に意味があると考えているのは、中学1年生の段階で、高校卒業時の目標が見えているということです。なお、このシラバスの詳細については、4月の最初の授業で生徒および保護者へ説明が行われます。



英語科6年間の計画

利用教材について

教科書を中心に授業を行います。副教材としては、教科書準拠のワークブック、単語集(1400語~3000語レベル)、NHKラジオ講座テキスト、読み物教材を利用しています。ただし、これらの副教材は、1回の利用で終わるものではなく、何度も何度も繰り返し利用する、いわゆる「塗り型学習」を取り入れています。また、当校には、英語科で編集した「For Olives 中高一貫英語実力養成問題集(CD3枚付)」という問題集(非売品)があり、各学年の年間計画に基づいて利用されています。この問題集の特徴は、中学1年生から高校卒業レベルまでの内容が1冊にまとめられていることです。内容は、Listening, Reading, Writingで構成され、音声は、当校のALTの協力で録音されています。中学1年生(3クラス約120名)と高校1年生(高校では、中学の3クラスに2クラスが加えられます)は、入学時に、卒業時に期待されている英語のレベルに触れることができるようになっています。



「For Olives 中高一貫英語実力養成問題集(CD3枚付)」

利用教室について

英語の授業は、教室、情報語学演習室、CS(コミュニケーションスペース)教室の3箇所で行われます。教室では、教科書をベースにした授業(週2時間)が行われ、情報語学演習室では、コンピュータを利用した授業(週1時間)が行われます。そして、CS教室では、TT(チームティーチング)(週1時間)が行われます。

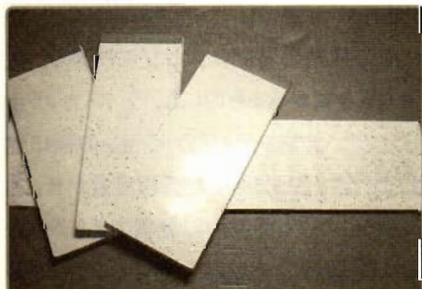
英語の授業について

教室での授業は、先に述べたように、教科書を中心とした、基礎基本の定着を図ることを基軸に据えた授業を行っています。同時に、それぞれの題材を通して、より深いレベルでの思考を促す授業を心掛け



ています。なお、個々の生徒の課題に対しては、例えば、音読や暗唱等を取り入れた指導を行っています。この時、英語科の前に生徒が列をなすことがあるのですが、「行列のできる英語科」と呼ばれることがあります(微笑)。この個別指導を通してわれわれは、授業では気付かない、それぞれの生徒が抱える問題点を見つけだし、教師と生徒との信頼関係を築きながら、その解決を図ることを大切にしています。当校の生徒の英語学習に対するモチベーションの高さは、このような個別指導が起爆剤になっていることが多いかもしれません。

さて、教科書以外で「横」と「縦」のつながりを深める実践を1つずつ紹介します。まず「リレーノート」ですが、これは、1クラスおよそ40名を6グループ(男女混合)に分けて、あるテーマに基づいてライティングをしていくノートです。ノートの大きさは、市販のノートを3分割にした大きさで、1ページに1パラグラフが書ける程度のもので



リレーノート

す。テーマは、教師が設定し、生徒は、次の日の朝のSHRまでに専用の箱に提出します。それを教師がコメントをつけながら、6時間目が終了するま

でに内容の確認をしていきます。教師は、その日の放課後までにコメントをつけた生徒に渡し、確認が終わった生徒は、次の生徒へ渡します。テーマは、自己紹介から始まり、趣味や好きな本の紹介といったものから、興味関心のある仕事などいろいろ取り上げています。中でも生徒が一番苦労したテーマは、相手(順番でいう次の友だち)の良いところを紹介しようというものでした。毎日顔を合わせてはいるけれど、いざ言葉で表そうとすると、なかなかでてこなかったようです。このようにしてお互いを知ろうとすることで、よりつながりの深い学習集団作りを行っています。

「お悩み相談」は、中学生が英語で書いた悩みの回答を高校生に考えてもらい、アドバイスをもらうという中高一貫校ならではの企画です。テーマは、教師が設定します。高校生には、中学生から、例えば「英語の勉強で悩んでいます。英語を勉強しなければならない理由を教えてください」という悩みがあることを伝えます。高校生は、自分のクラスと名前を明記し、中学生が理解できるレベルの英語を用いるという条件のもとで、専用の用紙に自分の意見をまとめます。これを教師が自分の担当する中学生の授業で配布します。中学生は、その内容を読んで、素直な感想を書きます。この感想が、高校生にとってはドキドキするものなのです。当然のことながら、大した回答ができなかったものについては、中学生からの手厳しいコメントが返ってきます。この活動が、ライティングとリーディングの

授業として、お互いにさまざまなことが学び合える非常に有効なものであることは言うまでもありません。

情報語学演習室(いわゆるCALL教室)では、44台のPCが利用できる環境が整えてあります。主に、ソフトレコーダー(内田洋行)というソフトを利用し、教科書のリスニング練習や音読等の録音に利用しています。また、ネットワーク型集中英語プログラム(「ぎゅっとe」(北辰映電))で、リスニングとリーディングにも取り組んでいます。



CS教室では、英会話学校の講師(イギリス人)とのTT(チームティーチング)が行われます。当校に10年以上も勤められているベテランです。当校の英語教員との息もピッタリで、生徒も非常に楽しみにしている授業の1つとなっています。



情報語学演習室での授業

英検受検の指導について

当校では、年間行事等を考慮し、毎年、第2回目の英検を準会場として行っています。ただし、受験については、強制はしておらず、あくまで生徒の主体性に任せています。また、受験級については、シラバスで提示されている級にチャレンジすることが期待されていますが、あくまで目安なので、実際のところは、生徒の判断に任せています。結果として、多くの生徒がこの機会を利用し、シラバスで提示された級にチャレンジします。なお、二次対策については、生徒からの希望があれば対応しています。このような対応の仕方で多くの合格者が出るのは、日々の英語教育の実践が功を奏していると言えるのかもしれませんが。

おわりに

今回の受賞は、当校英語科教員のエゴ(Ego)ではなく、愛(i)のある英語(Eigo)教育とそれに応える生徒の頑張り、さらには保護者の理解があったからこそのものだと思います。これからも一層の努力をしていきます。関係者の皆さまありがとうございました。

お知らせ

2006年度第36回教育研究会
とき：2006年9月29日(金) 場所：広島大学附属福山中・高等学校
英語科テーマ：確かな学力を育てる英語授業の創造
問合せ先：<http://elm.fukuyama.hiroshima-u.ac.jp/inf2/index.html>